



Infor LN グローバル貿易コンプライアンスユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	comgtcug (Ugtcug)
リリース	10.5.1 (10.5.1)
発行日	2017 年 12 月 19 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	7
第2章 グローバル貿易コンプライアンスのプロセス.....	9
販売オーダーのグローバル貿易コンプライアンス.....	9
販売オーダーライン.....	9
構成要素.....	10
輸出コンプライアンスチェック.....	10
購買オーダーのグローバル貿易コンプライアンス.....	11
購買オーダーライン.....	11
構成要素.....	12
輸入コンプライアンスチェック.....	12
第3章 コンプライアンスチェック.....	13
輸出コンプライアンスチェック.....	13
内部輸出コンプライアンスチェック.....	14
内部輸出コンプライアンスチェック.....	14
コンプライアンスチェック結果.....	14
コンプライアンスチェック結果の承認.....	15
輸入コンプライアンスチェック.....	16
内部輸入コンプライアンスチェック.....	17
内部輸入コンプライアンスチェック.....	17
第4章 グローバル貿易コンプライアンスのライセンス.....	19
輸出ライセンス消費.....	23
輸出コンプライアンスライセンスの削除.....	23
輸入ライセンス消費.....	28
輸入コンプライアンスライセンスの削除.....	28

文書情報

このガイドでは、特定の品目を特定の国に輸出できるかどうかや特定の品目を特定の取引先との間で受け渡しできるかどうかを確認するために使用するグローバル貿易コンプライアンス機能を説明します。

目的

本書の目的は、特定品目の特定の国への輸出、または特定品目の特定の取引先との輸出入が可能かどうかのチェックに使用されるグローバル貿易コンプライアンス機能を説明することです。

対象者

本書は、グローバル貿易コンプライアンス機能を学習したいユーザを対象にしています。

前提となる知識

グローバル貿易コンプライアンスに関する業務プロセスを熟知し、Infor LN の機能に関する一般的な知識があると、本書の内容をより良く理解できます。さらに、共通情報トレーニングコースも利用できます。

本書の概要

次の表に、本書の章を示します。

第 1 章	概要
第 2 章	グローバル貿易コンプライアンスのプロセス
第 3 章	コンプライアンスチェック
第 4 章	グローバル貿易コンプライアンスのライセンス

本書の使い方

本書は、オンラインヘルプトピックから作成されたものです。そのため、マニュアルの他のセクションへの参照は、次のように表示されます。

参照先セクションに移動するには、目次を参照してください。

下線の付いた用語には、用語集の定義へのリンクが設定されています。本書をオンラインで表示した場合、下線の付いた用語をクリックすると、本書の巻末にある用語集の定義に移動できます。下線のない参照は、用語集の定義やその他の要素にリンクされていません。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡くださいますようお願いいたします。

グローバル貿易コンプライアンス機能を利用して、個別品目の特定の国への輸出、または特定取引先との輸出入が可能であるかどうかを確認できます。

この機能を利用して、以下ができます。

- 内部チェックまたは外部チェック、あるいはその両方の実行。内部チェックはInfor LNで実行され、外部チェックは外部アプリケーションを使用して実行されます。
- 輸出ライセンスの作成とメンテナンス。この情報は内部コンプライアンスチェックで使用されます。

グローバル貿易コンプライアンス

「グローバル貿易コンプライアンス」機能を利用して、個別品目の特定の国への輸出、または個別取引先と輸出のやり取りが可能であるかが確認できます。

この機能を利用して、以下ができます。

- 内部チェックまたは外部チェック、あるいはその両方の実行。内部チェックはInfor LNで実行され、外部チェックは外部アプリケーションを使用して実行されます。
- 輸出ライセンスの作成とメンテナンス。この情報は内部コンプライアンスチェックで使用されます。

外部チェックの場合、輸出入のコンプライアンスデータをそれぞれの品目について指定します。このデータは、外部アプリケーションに送信し、コンプライアンスチェックの情報として利用できます。チェックが失敗した場合、商品の輸出入はブロックされます。ただし、承認済ユーザは、伝票のコンプライアンスチェックの失敗を無効にし、輸出入のブロックを上書きできます。

機能を実行するには、GTC の導入 (ページ 7)を参照してください。

GTC の導入

機能は以下のように実行します。

ステップ 1:

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションにおいて、[コンセプト (ロジ)] タブの [グローバル貿易コンプライアンス] チェックボックスをオンにする必要があります。

ステップ 2:

グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションにおいて、[輸出コンプライアンス] チェックボックスをオンにする必要があります。

ステップ 3:

品目 (tcibd0501m000) セッションにおいて、[貿易コンプライアンスの遵守] チェックボックスをオンにする必要があります。

ステップ 4:

追加のグローバル貿易コンプライアンスデータは、輸出伝票レベルで指定できます。この情報は、輸出レポートに出力できます。

第2章

グローバル貿易コンプライアンスのプロセス

2

販売オーダーのグローバル貿易コンプライアンス

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [グローバル貿易コンプライアンス] チェックボックスおよびグローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [輸出コンプライアンス] チェックボックスがオンの場合、輸出コンプライアンスが適用される品目の情報が設定できます。

品目がグローバル貿易コンプライアンスの対象となる場合、内部チェックが実行され、輸出コンプライアンス情報が有効であり、必要なライセンスが利用可能であることが確認されます。これは、販売オーダーライン入力、契約成果物の有効化、出荷凍結、または確認において行われます。

輸出コンプライアンスについて販売オーダーラインのチェックが終わると、成功および失敗データが記録されます。輸出コンプライアンスチェックが失敗した場合、販売オーダーラインはブロックされます。

輸出コンプライアンスチェックの伝票の実行を可能にするには、伝票例外を指定します。たとえば、例外は取引先、国、および伝票タイプ別に指定できます。

販売オーダーライン

販売オーダーラインが販売オーダー - ライン (tdsls4100m900) セッションで指定されると、以下の条件が該当する場合に輸出コンプライアンスチェックが実行されます。

- グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [輸出コンプライアンス] タブで [内部チェック] チェックボックスがオンになっている
- オーダタイプが在庫返品、遡及請求、または委託請求で使用されていない
- 倉庫が指定されている
- オーダ数量またはオーダ金額がゼロよりも大きい
- 品目 (tcibd0501m000) セッションで該当品目の [貿易コンプライアンスの遵守] チェックボックスがオンになっている
- 出荷先住所の国が出荷元住所の国と異なる

これらの条件が該当し、輸出伝票例外 (tcgtc0130m000) セッションで例外が見つからない場合、販売オーダーラインに対して内部コンプライアンスチェックが実行されます。この内部チェックでは、輸出ライセンス (tcgtc0120m000) セッションで輸出ライセンスが利用可能かつ有効であるかどうか、および品目輸出コンプライアンスデータ (tcgtc0110m000) セッションで輸出コンプライアンスデータが利用可能かつ品目と出荷先の組合わせに有効であるかどうかアプリケーションによって検証されます。

輸出ライセンス (tcgtc0120m000) セッションで輸出ライセンスの [制限数量の適用] チェックボックスまたは [制限価額の適用] チェックボックスがオンの場合、数量および価額の制限が確認されます。このため、棚卸単位における販売オーダーラインのオーダー数量、およびオーダー通貨における正味オーダーライン金額を使用します。出荷確認時に、輸出ライセンス消費が輸出ライセンス消費 (tcgtc1520m000) セッションで記録されます。

注意

グローバル貿易コンプライアンスが販売オーダーラインの品目に適用される場合、そのラインの [貿易コンプライアンスの遵守] チェックボックスがオンになります。

構成要素

販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [構成要素処理] フィールドが [販売部品表] または [構成要素ライン] に設定されている場合、構成要素が販売オーダーラインにリンクします。輸出コンプライアンスチェックは、出荷された構成要素に対してのみ行われ、主品目に対しては行われません。したがって、コンプライアンスチェック結果は構成要素ラインによって記録されます。

これらのラインは、以下のように構成要素がコンプライアンスチェックに失敗するとブロックされます。

- [販売部品表]
オーダーラインがブロックされます。いくつかの構成要素がチェックに失敗する場合がありますが、ブロック販売オーダー (ライン) (tdsls4520m000) セッションで生成される販売オーダーラインのブロック記録は1つだけです。構成要素ラインのすべての失敗結果が削除されるまで、オーダーラインのブロックは解除できません。
- [構成要素ライン]
販売オーダーライン構成要素 (tdsls4163m000) セッションでは、オーダーラインではなく、オーダー構成要素ラインがブロックされます。

輸出コンプライアンスチェック

このコンプライアンスチェックは、成功または失敗となり、伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションで確認できます。

成功の場合、販売オーダー (構成要素) ラインが保存され、オーダー手順を開始できるようになります。コンプライアンスチェック結果は自動的に承認されます。

失敗の場合、ラインが保存され、ブロックに設定されます。したがって、ラインでは [ブロック] チェックボックスがオンになり、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [事前定義保留理由 - 輸出コンプライアンスチェック] フィールドから取得された [保留理由] とともにラインがブロック販売オーダー (ライン) (tdsls4520m000) に表示されます。

保留理由が [コンプライアンスチェック] になっている場合、ブロック販売オーダー (ライン) (tdsls4520m000) セッションは使用できません。ラインのブロックを解除するには、必要なデータを更新し、輸出コンプライアンスチェックを再度実行するか、権限を持つ人が伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) またはコンプライアンスチェック結果の上書きワークベンチ (tcgtc1610m100) セッションを使用してマニュアルで輸出ブロックを上書きすることができます。

注意

いくつかの販売セッションの適切なメニューでは、以下のコマンドが使用できます。

- [輸出コンプライアンス情報] は、伝票のグローバル貿易コンプライアンス情報 (tcgtc1100m000) セッションの販売伝票についてグローバル貿易情報を表示およびメンテナンスします。
- [輸出コンプライアンスのチェック] は、輸出コンプライアンスチェックを強制的に実行します。

購買オーダーのグローバル貿易コンプライアンス

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [グローバル貿易コンプライアンス] チェックボックスおよびグローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [輸入コンプライアンス] チェックボックスがオンの場合、輸入コンプライアンスが適用される品目の情報を設定できます。

品目がグローバル貿易コンプライアンスの対象となる場合、内部チェックが実行され、輸入コンプライアンス情報が有効であり、必要なライセンスが利用可能であることが確認されます。このチェックは、購買オーダーラインの入力、出荷通知ラインのスケジュール、および入庫ラインの確認を行うときに実行されます。

輸入コンプライアンスについて購買オーダーラインのチェックが終わると、成功および失敗データが記録されます。輸入コンプライアンスチェックが失敗した場合、購買オーダーラインはブロックされます。

輸入コンプライアンスチェックから伝票を除外可能にするには、伝票例外を指定します。たとえば、例外は取引先、国、および伝票タイプ別に指定できます。

購買オーダーライン

購買オーダーラインが購買オーダー - ライン (tdpur4100m900) セッションで指定されると、以下の条件が該当する場合に輸入コンプライアンスチェックが実行されます。

- グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションで [輸入コンプライアンス] タブの [内部チェック] チェックボックスがオンになっている
- オーダタイプが在庫返品、不合格品の返品、または委託支払に使用されていない
- 倉庫が指定されている
- オーダ数量またはオーダ金額がゼロよりも大きい
- 品目 (tcibd0501m000) セッションで該当品目の [貿易コンプライアンスの遵守] チェックボックスがオンになっている
- 出荷元住所の国が入庫住所の国と異なる

これらの条件が該当し、輸入伝票例外 (tcgtc0130m100) セッションで例外が見つからない場合、購買オーダーラインに対して内部コンプライアンスチェックが実行されます。この内部チェックでは、輸入ライセンス (tcgtc0120m100) セッションで有効な輸入ライセンスが利用可能であるかどうかを確認されます。品目輸入コンプライアンスデータ (tcgtc0110m100) セッションで、品目および出荷元国の組合せに関する輸入コンプライアンスデータの利用性および有効性も確認されます。

輸入ライセンス (tcgtc0120m100) セッションで輸入ライセンスの [制限数量の適用] チェックボックスまたは [制限価額の適用] チェックボックスがオンの場合、数量および価額の制限が確認されます。これらのチェックには、購買オーダーラインの棚卸単位でのオーダー数量、およびオーダー通貨での正味オーダーライン金額が使用されます。入庫確認時に、輸入ライセンス消費が輸入ライセンス消費 (tcgtc1520m100) セッションで記録されます。

注意

グローバル貿易コンプライアンスが購買オーダーラインの品目に適用される場合、そのラインの [貿易コンプライアンスの遵守] チェックボックスがオンになります。

構成要素

購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションの [在庫処理] フィールドが [構成要素別] に設定されている場合、構成要素が購買オーダーラインにリンクされます。輸入コンプライアンスチェックは、入庫された構成要素に対してのみ行われ、主品目に対しては行われません。したがって、コンプライアンスチェック結果は構成要素ラインによって記録されます。

構成要素がコンプライアンスチェックに失敗した場合、オーダーラインがブロックされます。いくつかの構成要素がチェックに失敗する場合がありますが、購買オーダー (ライン) ブロック (tdpur4120m000) セッションで生成される購買オーダーラインのブロックレコードは 1 つだけです。構成要素ラインのすべての失敗結果が削除されるまで、オーダーラインのブロックは解除できません。

輸入コンプライアンスチェック

このコンプライアンスチェックは成功または失敗になり、結果は伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションに表示されます。

チェックが成功の場合、購買オーダー (構成要素) ラインが保存され、オーダー手順を開始できます。コンプライアンスチェック結果は自動的に承認されます。

失敗の場合、ラインが保存され、ブロックされます。したがって、そのラインの [ブロック] チェックボックスがオンになります。ラインデータは購買オーダー (ライン) ブロック (tdpur4120m000) セッションに表示され、[保留理由] フィールドの値は購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [輸入コンプライアンス保留理由] フィールドから取得されます。ラインをブロック解除するには、必須データを更新し、輸入コンプライアンスチェックを再実行します。または、権限を持つ人が伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションまたはコンプライアンスチェック結果の上書きワークベンチ (tcgtc1610m100) セッションを使用して、マニュアルで輸出ブロックを上書きすることができます。

注意

いくつかの調達セッションの適切なメニューでは、[輸入コンプライアンスのチェック] オプションを使用して輸入コンプライアンスチェックを強制的に実行できます。

輸出コンプライアンスチェック

輸出コンプライアンスチェックは、輸出シナリオについてのみ実行されます。つまり、出荷について倉庫管理で指定される出荷先国が出荷元国と異なる場合にのみ実行されます。

輸出コンプライアンスチェックは、以下の伝票に対して適用されます。

- 販売オーダーライン (出荷前)。販売オーダーのグローバル貿易コンプライアンス (ページ 9) を参照してください。
- 契約成果物 (出荷前)。契約成果物の輸出コンプライアンスチェックを参照してください。
- 倉庫出荷ライン (実際出荷)

輸出コンプライアンスチェックの例外

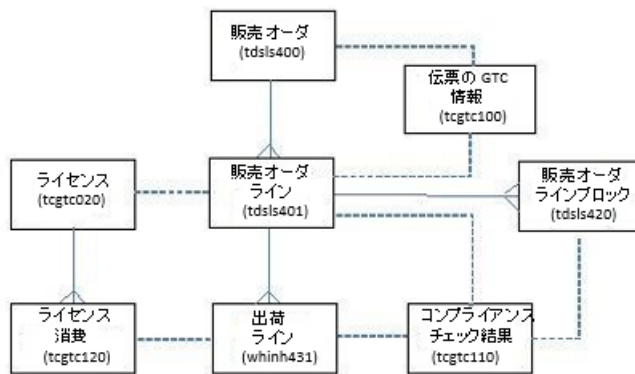
コンプライアンスチェックは以下に適用されません。

- 販売返品オーダーラインおよび委託請求販売オーダー
- 倉庫管理にリンクしない出荷 (例: 原価品目または直送)

倉庫出荷の場合、コンプライアンスチェックは以下の発生元に対してのみ適用されます。

- 販売オーダー (転送)
- 販売スケジュール (転送)
- 販売 (マニュアル)
- 契約成果物
- サービスオーダー (転送)
- サービス (マニュアル)
- メンテナンス販売オーダー
- メンテナンス販売 (マニュアル)
- プロジェクト (転送)
- プロジェクト (マニュアル)
- 転送
- 転送 (マニュアル)

次の図は、グローバル貿易コンプライアンスと輸出伝票 (販売伝票) との関係を示します。



内部輸出コンプライアンスチェック

内部輸出コンプライアンスチェック

内部輸出コンプライアンスチェックは、輸出シナリオについてのみ実行されます。つまり、出荷について倉庫管理で指定される出荷先国が出荷元国と異なる場合にのみ実行されます。これは、Infor LN のライセンスおよび例外設定に基づいて実行されます。

内部輸出コンプライアンスチェックは、グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [一般] タブの [輸出コンプライアンス] チェックボックス、および [輸出コンプライアンス] タブの [内部チェック] チェックボックスがオンの場合にのみ有効になります。また、[ライセンスの番号グループ] フィールドおよび [ライセンスのシリーズ] フィールドに必須情報を指定する必要があります。

コンプライアンスチェック結果

内部または外部のコンプライアンスチェックが実行されると、伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションにおいて、伝票コンプライアンスチェックに関するコンプライアンスチェック結果が記録されます。

グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [ログ履歴] チェックボックスがオンの場合、履歴は伝票のコンプライアンスチェック結果履歴 (tcgtc1560m000) セッションに記録されます。

注意

- コンプライアンスチェック結果は、マニュアルでの指定、メンテナンス、または削除ができません。結果の追加データは、備考を使用して追加でき、これは結果とリンクします。
- コンプライアンスチェック (内部または外部) が成功しなかった場合、伝票手順は継続できません。販売オーダーラインおよび購買オーダーラインの場合、オーダーラインはコンプライアンスチェック失敗後にブロックされます。また、出荷および入庫の確認もできません。コンプライアンスチェックが成功した場合、オーダーライン手順が継続でき、出荷または入庫が確認できます。

コンプライアンスチェック結果の承認

出荷ラインのコンプライアンスチェックが正常に処理されると、出荷ラインが確認されます。ただし、グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [コンプライアンスチェック結果承認] フィールドを使用して出荷ラインの確認を管理することができます。[コンプライアンスチェック結果承認] フィールドの値:

- [Yes] に設定されている場合、コンプライアンスチェックが成功した後でも Infor LN は出荷ラインを確認しません。このラインは、伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションを使用してマニュアルで承認する必要があります。
 - [Yes] に設定されており、例外が存在している場合、チェックはマニュアルで承認する必要があります。
 -
- [No] に設定されている場合、Infor LN は、コンプライアンスチェックの処理を承認します。
- [例外] に設定されている場合、検索が実行され輸出伝票例外 (tcgtc0130m000) セッションで有効な例外が特定されます。例外が利用できない場合、Infor LN は、成功したコンプライアンスチェックを承認します。

注意

出荷コンプライアンス結果の成功は、ワークフローを実行して承認することもできます。

コンプライアンスチェック結果の上書きまたは削除

承認済ユーザは、コンプライアンスチェック失敗を上書きし、チェックを処理できます。コンプライアンスチェックが失敗した場合でも、ユーザは、コンプライアンスチェック失敗を上書きすることで、出荷ラインの確認またはブロックされたオーダの発行ができます。

コンプライアンスチェック結果の上書きは以下のように行います。

- 失敗の結果記録を選択し、伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m400) セッションの [伝票のコンプライアンスチェック結果の上書き] をクリックします。
- 上書き理由コードを指定する必要があります。
- コンプライアンスチェック失敗を上書きするユーザの詳細が保存されます。

注意

- ユーザは、コンプライアンスチェックに関する出荷ラインの失敗したチェックを上書きできません。
- また、承認済ユーザは、[伝票のコンプライアンスチェック結果の上書きを元に戻す] オプションを使用して失敗したチェックの上書きを元に戻すことができます。上書きデータは、コンプライアンスチェック結果から削除され、伝票の状況が元に戻ります。

上書きデータを含むコンプライアンスチェック結果に対するすべての変更は、伝票のコンプライアンスチェック結果履歴 (tcgtc1560m000) セッションに保存されます。

コンプライアンスチェック結果の削除については、コンプライアンスチェック結果の削除 (ページ 16)を参照してください。

コンプライアンスチェック結果の削除

コンプライアンスチェック結果を削除するには:

ステップ 1:

伝票のコンプライアンスチェック結果の削除 (tcgtc1210m000) セッションを使用して、コンプライアンスチェック結果が削除できます。

ステップ 2:

データは、[選択範囲] に基づいて削除でき、または [設定] グループボックスの [日付] フィールドを使用して、特定の日付までデータを削除することもできます。

ステップ 3:

ライセンス履歴は、輸出ライセンス履歴の削除 (tcgtc0270m000) セッションを使用して削除できます。

注意

承認されていないコンプライアンスチェック結果は上書きできません。

輸入コンプライアンスチェック

輸入コンプライアンスチェックは、輸入シナリオについてのみ実行されます。つまり、入庫について倉庫管理で指定される出荷元国が出荷先国と異なる場合にのみ実行されます。

輸入コンプライアンスチェックのシミュレート (tcgtc1200m100) を使用して、実際には計画されていない活動で輸入コンプライアンスチェックを更新することができます。このチェックは指定された値に基づき、内部コンプライアンスチェックを実行できます。

輸入コンプライアンスチェックは、以下の伝票に対して適用できます。

- 購買オーダーライン
- 入庫ライン (実際入庫)
- 事前出荷通知 (該当する場合) (事前出荷通知は出荷が履行される前に受け取られ、そのレコードについてコンプライアンスチェックが実行される)

輸入コンプライアンスチェックの例外:

コンプライアンスチェックは以下に適用されません。

- 販売返品オーダーラインおよび委託支払販売オーダー
- 倉庫管理にリンクしない入庫 (例: 原価品目または直送)
- 販売返品入庫

入庫の場合、コンプライアンスチェックはすべての発生元に適用できます。

内部輸入コンプライアンスチェック

内部輸入コンプライアンスチェック

内部輸入チェックは、Infor LN のライセンスおよび例外設定に基づき、輸入シナリオについてのみ実行されます。

内部輸入コンプライアンスチェックは、グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [一般] タブの [輸入コンプライアンス] チェックボックス、および [輸入コンプライアンス] タブの [内部チェック] チェックボックスがオンの場合にのみ有効になります。また、[ライセンスの番号グループ] フィールドおよび [ライセンスのシリーズ] フィールドに必須情報を指定する必要があります。

一連のライセンスを使用して、特定の品目およびその他の属性の個別ライセンスを記録する新しい輸入ライセンス番号が作成されます。

第4章

グローバル貿易コンプライアンスのライセンス

4

輸出ライセンス概要

輸出ライセンスには、ライセンスタイプ、ライセンス番号、スクリーニングコード、制限数量、制限価額 (該当する場合) などの情報が含まれています。輸出ライセンス (tcgtc0120m000) セッションを使用して、輸出ライセンスデータの作成およびメンテナンスができます。輸出ライセンスは、輸出ライセンス (tcgtc0620m200) セッションで以下のさまざまなレベルに定義できます。

- 一時的
- 国セット
- 国
- 取引先セット
- 販売先取引先
- 出荷先取引先
- 伝票発生元
- 伝票会社
- 伝票
- 品目

検索優先順位ルールは、次のフィールドに指定された情報に基づきます。

出荷先住所	販売先取引先	出荷先取引先
出荷先住所	出荷先取引先	
出荷先住所	販売先取引先	
出荷先住所		
国	販売先取引先	出荷先取引先
国	出荷先取引先	
国	販売先取引先	
国セット	販売先取引先	出荷先取引先
国セット	出荷先取引先	
国セット	販売先取引先	
販売先取引先	出荷先取引先	
出荷先取引先		
販売先取引先		
国	取引先セット	
国セット	取引先セット	
取引先セット		
国		
国セット		

取引先、住所、国に基づく検索優先順位:

- 国セットまたは取引先セットが指定されている場合、国または取引先が指定されたすべてのセットがチェックされます。国と取引先は、複数の国セットおよび取引先セットにそれぞれリンクできます。
- 販売先取引先が出荷先取引先と異なる場合、取引先を異なる取引先セットにリンクできません。まず出荷先取引先の取引先セットが検索され、次に販売先取引先の取引先セットが検

索されます。そのため、出荷先取引先セットは販売先取引先セットよりも優先されます。同じ方法が購買元取引先と出荷元取引先に適用されます。

注意

- ライセンスまたはライセンスの変更に関する追加情報は、輸出ライセンス (tcgtc0120m000) セッションの [備考] オプションを使用して指定することができ、輸出ライセンスとリンクされます。
- コンプライアンスチェックから伝票を除外することができます (例: 特定の国または特定の取引先)。

ライセンスの検索ロジックまたは優先順位規則については、ライセンスの検索ロジックまたは優先順位規則 (ページ 21) を参照してください。

ライセンスの検索ロジックまたは優先順位規則

以下の検索メカニズムを使用して、伝票に適用できる有効なライセンスを検索します。

ステップ 1:

[出荷先住所]、[国]、[販売先取引先]、[品目] のうち、1 つ以上のフィールドが指定されているライセンス。

ステップ 2:

伝票に伝票発生元および伝票会社のデータが指定されている。これらのデータは、[伝票] フィールドに組合せでのみ指定できます。

ステップ 3:

その伝票のみが指定されており、リンクされている輸出ライセンスに最高の優先順位が割り当てられている。

輸出ライセンスチェック

伝票の一般輸出ライセンスチェックが実行されます。特定の検索メカニズムが使用され、伝票とリンクする輸出ライセンスを特定します。

伝票の例外が 輸出伝票例外 (tcgtc0130m000) セッションで指定されていない場合、検索は [伝票タイプ]、[国]、[販売先取引先]、[出荷先取引先]、[販売オーダータイプ]、および検索日に基きます。

- 国の場合、[出荷先住所] フィールドに指定された値が考慮されます。
- オーダーラインの場合、計画納期が検索日と見なされます。
- 出荷ラインの場合、現在の日付が検索日と見なされます。

注意

- 輸出例外が存在する場合、輸出ライセンス検索は実行されず、内部チェックは実行されません。

- ライセンスが特定されない場合、有効なデータが利用できないため、内部チェックは実行できません。コンプライアンスチェックの失敗は、失敗理由コードと共に伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションに記録されます。

チェックの種類とコンプライアンスチェック失敗については、次を参照してください。

- チェックの種類 (ページ 22)
- コンプライアンスチェック失敗 (ページ 22)

チェックの種類

輸出ライセンスが見つかった場合、以下の 2 種類のチェックが実行されます。

実行される数量チェック:

- 販売オーダーラインの場合、棚卸単位に変換されたオーダー数量が使用されます。
- 出荷ラインの場合、出荷する数量 (棚卸単位) が使用されます。

実行される価額チェック:

- 販売オーダーラインの場合、(正味オーダーライン金額 - オーダー値引額 - 販売オーダー金額) 計算が使用されます。
- 出荷ラインの場合、価額は出荷する数量の価額と等しくなります。この価額は、販売オーダーの商業価格、スケジュール納入ライン、またはこれら双方に基づきます。出荷ラインでは、正しい資材価格も特定されます。
- 金額は、内部為替レートを使用してライセンス通貨に換算されます。
- 発生元が販売オーダーまたは販売スケジュール以外の出荷ラインの場合、品目の商業価格に基づいて、出荷する数量の価額を決定する必要があります。それ以外の場合は、関税値 (該当する場合) を使用できます。
- 輸出ライセンス (tcgtc0120m000) セッションの [制限数量] チェックボックスがオンの場合、チェックが実行され、[制限出荷ライン価額] フィールドに基づく出荷ラインの価額が出荷できるかどうかを確認されます。ただし、このチェックでは、出荷ラインの価額を決定する必要があります。

注意

出荷ラインの価額がライセンスの [制限出荷ライン価額] を上回る場合、コンプライアンスチェックは失敗になります。コンプライアンスチェック失敗は記録され、伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1610m000) セッションの [失敗理由コード] が [運用上の問題] に設定されます。

コンプライアンスチェック失敗

関連情報が指定されていない場合、コンプライアンスチェック失敗が記録されます。

- [ライセンス番号] フィールドの値が指定されていない場合、チェックは失敗します。例外: [スクリーニングコード] が [ライセンス不要] に設定されている場合、ライセンス番号の指定は不要です。
- ライセンスデータが指定されていない場合、コンプライアンスチェック失敗が記録され、[失敗理由コード] が [マスターデータ不足] に設定されます。
- 輸出ライセンス (tcgtc0120m000) セッションの [制限数量の適用] または [制限数量] チェックボックスがオンの場合、チェックが実行され、伝票の数量または価額が出荷できるかどうかを確認されます。見つかった輸出ライセンスに指定されている残数量または残価額が

伝票の数量または価額よりも少ない場合、コンプライアンスチェックは失敗になります。コンプライアンスチェック失敗が記録され、グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションで [失敗理由コード] が [運用上の問題] に設定されます。

注意

また、伝票の品目および国について品目コンプライアンスデータが利用可能であるかどうかを確認するチェックも実行されます。品目データが利用できない場合、コンプライアンスチェック失敗が記録され、グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションで [失敗理由コード] が [品目コンプライアンスデータ不足] に設定されます。

輸出ライセンス消費

内部輸出チェックが実行されると、輸出ライセンスの消費が特定されます。これは、輸出ライセンス (tcgtc0120m000) セッションで輸出ライセンスの [制限数量の適用] または [制限価額の適用] チェックボックスがオンの場合に限られます。出荷確認では、輸出ライセンス消費 (tcgtc1520m000) セッションで消費ラインが生成されます。制限数量が適用される場合、出荷済数量が品目の棚卸単位で指定されます。制限価額が適用される場合、出荷金額は、ライセンス通貨 (内部為替レートによる) に換算され、消費として保存されます。この価額は、税金、輸入仕入原価または追加原価を除外した金額です。

支払不要の販売オーダーラインの場合、オーダーライン価格ではなく、関税値を使用する必要があります。納入ラインの価格もしくは割引または両方が変更された場合、これに対応する修正金額はライセンス消費の一部として表示されません。

また、出荷とリンクする販売返品オーダーラインについて入庫が確認された場合、関連輸出ライセンスの消費数量/価額からこの数量または価額を減らす必要はありません。

輸出ライセンス消費は、グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [ログ履歴] チェックボックスがオンの場合にのみ、履歴セッションでアーカイブされます。

輸出コンプライアンスライセンスの削除

コンプライアンスライセンスは、[伝票のコンプライアンスチェック結果の削除] オプションを使用して削除できます。

注意

伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションで [ライセンス ID] が指定されている場合、ライセンスは削除できません。

ライセンスが削除され、有効期限が現在の日付よりも後の場合、「ライセンス ID xyz はまだ失効していません。継続しますか?」というメッセージが表示されます。

輸出コンプライアンスライセンス履歴の削除:

ライセンス履歴は、輸出ライセンス履歴の削除 (tcgtc0270m000) セッションを使用して削除できます。データは、[ライセンス ID] の [選択範囲] に基づいて削除できます。[設定] グループボックスの [日付] フィールドを使用して、[日付] フィールドに指定された日付までのデータを削除することもできます。この日付以前の取引日を持つライセンス履歴が削除されます。

輸入ライセンス概要

輸入ライセンスには、ライセンスタイプ、ライセンス番号、スクリーニングコード、制限数量、制限価額 (該当する場合) などの情報が含まれています。輸入ライセンス (tcgtc0120m100) セッションを使用して、輸入ライセンスデータの作成およびメンテナンスができます。輸入ライセンスは、輸入ライセンス (tcgtc0620m100) セッションで以下のさまざまなレベルに定義できます。

- 国セット
- 国
- 取引先セット
- 購買元取引先
- 出荷元取引先
- 出荷元住所
- 伝票発生元
- 伝票会社
- 伝票
- 品目

検索優先順位ルールは、次のフィールドに指定された情報に基づきます。

出荷元住所	購買元取引先	出荷元取引先
出荷元住所	出荷元取引先	
出荷元住所	購買元取引先	
出荷元住所		
国	購買元取引先	出荷元取引先
国	出荷元取引先	
国	購買元取引先	
国セット	購買元取引先	出荷元取引先
国セット	出荷元取引先	
国セット	購買元取引先	
購買元取引先	出荷元取引先	
出荷元取引先		
購買元取引先		
国	取引先セット	
国セット	取引先セット	
取引先セット		
国		
国セット		

取引先、住所、国に基づく検索優先順位:

- 国セットまたは取引先セットが指定されている場合、国または取引先が指定されたすべてのセットがチェックされます。国と取引先は、複数の国セットおよび取引先セットにそれぞれリンクできます。
- 購買元取引先が出荷元取引先と異なる場合、取引先を異なる取引先セットにリンクできます。まず出荷元取引先の取引先セットが検索され、次に購買元取引先の取引先セットが検索されます。そのため、出荷元取引先セットは購買元取引先セットよりも優先されます。

注意

- ライセンスまたはライセンスの変更に関する追加情報は、輸入ライセンス (tcgtc0120m100) セッションの [備考] オプションを使用して指定することができ、輸入ライセンスとリンクされます。
- コンプライアンスチェックから伝票を除外することができます (例: 特定の国または特定の取引先)。

ライセンスの検索ロジックまたは優先順位規則については、ライセンスの検索ロジックまたは優先順位規則 (ページ 26) を参照してください。

ライセンスの検索ロジックまたは優先順位規則

以下の検索メカニズムを使用して、伝票に適用できる有効なライセンスを検索します。

ステップ 1:

[出荷元住所]、[国]、[購買元取引先]、[品目] のうち、1 つ以上のフィールドが指定されているライセンス。

ステップ 2:

製造元製品番号 (MPN) が指定されているライセンス。結果として、製造元製品番号が指定されている輸入ライセンスに最高の優先順位が割り当てられます。

ステップ 3:

伝票に伝票発生元 および伝票会社のデータが指定されている。これらのデータは、[伝票] フィールドに組合せでのみ指定できます。

ステップ 4:

その伝票のみが指定されており、リンクされている輸入ライセンスに最高の優先順位が割り当てられている。

輸入ライセンスチェック

伝票とリンクする輸入ライセンスに特定の検索ロジックを実行します。

伝票の例外が 輸入伝票例外 (tcgtc0130m100) セッションで指定されていない場合、検索は [伝票タイプ]、[国]、[購買元取引先]、[出荷元取引先]、[購買オーダータイプ]、および検索日に基づきます。

- 国の場合、[出荷元住所] フィールドに指定された値が考慮されます。
- オーダーラインの場合、計画入庫日が検索日と見なされます。
- 入庫ラインの場合、現在の日付が検索日と見なされます。
- 事前出荷通知 (該当する場合) (事前出荷通知は出荷が履行される前に受け取られ、そのレコードについてコンプライアンスチェックが実行される)

注意

- 輸入例外が存在する場合、輸入ライセンス検索は実行されず、内部チェックは実行されません。
- ライセンスが特定されない場合、有効なデータが利用できないため、内部チェックは実行できません。コンプライアンスチェックの失敗は、失敗理由コードと共に伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションに記録されます。結果の記録では、ライセンス ID が空白になります。

チェックの種類とコンプライアンスチェック失敗については、次を参照してください。

- チェックの種類 (ページ 27)
- コンプライアンスチェック失敗 (ページ 27)

チェックの種類

輸入ライセンスが見つかった場合、以下の 2 種類のチェックが実行されます。

注意

これらのチェックは、使用するライセンスで [制限数量の適用] または [制限価額の適用] チェックボックスがオンの場合にのみ実行されます。

実行される数量チェック:

- 購買オーダーラインの場合、棚卸単位に変換されたオーダー数量が使用されます。
- 入庫ラインの場合、入庫する数量 (棚卸単位) が使用されます。
- 事前出荷通知 (該当する場合) (事前出荷通知は出荷が履行される前に受け取られ、そのレコードについてコンプライアンスチェックが実行される)

実行される価額チェック:

- 購買オーダーラインの場合、式 (正味オーダーライン金額 - オーダー値引額) の計算が使用されます。
- 入庫ラインの場合、価額は入庫する数量の価額と等しくなります。この価額は、購買オーダーの商業価格またはスケジュール納入ライン、あるいは両方にに基づきます。正しい資材価格も入庫ラインに指定されます。
- 金額は、内部為替レートを使用してライセンス通貨に換算されます。
- 発生元が購買オーダーまたは購買スケジュール以外の入庫ラインの場合、品目の商業価格に基づいて、入庫する数量の価額を決定する必要があります。それ以外の場合は、関税値 (該当する場合) を使用できます。

コンプライアンスチェック失敗

関連情報が特定されない場合、コンプライアンスチェックは以下のように失敗となります。

- [ライセンス番号] フィールドの値が指定されていない場合、チェックは失敗します。例外: [スクリーニングコード] が [ライセンス不要] に設定されている場合、ライセンス番号の指定は不要です。
- ライセンスデータが指定されていない場合、コンプライアンスチェック失敗が記録され、[失敗理由コード] が [マスタデータ不足] に設定されます。

- 輸入ライセンス (tcgtc0120m100) セッションの [制限数量の適用] または [制限価額の適用] チェックボックスがオンの場合、チェックが実行され、伝票の数量または価額を検証できるかどうかを確認されます。見つかった輸入ライセンスに指定されている残数量または残価額が伝票の数量または価額よりも少ない場合、コンプライアンスチェックは失敗になります。コンプライアンスチェック失敗が記録され、[失敗理由コード] が [運用上の問題] に設定されます。

注意

また、伝票の品目および国について品目コンプライアンスデータが利用可能であるかどうかを確認するチェックも実行されます。品目データが利用できない場合、コンプライアンスチェック失敗が記録され、[失敗理由コード] が [品目コンプライアンスデータ不足] に設定されます。

輸入ライセンス消費

内部輸入チェックが実行されると、輸入ライセンスの消費が指定されます。これは、輸入ライセンス (tcgtc0120m100) セッションで輸入ライセンスの [制限数量の適用] または [制限価額の適用] チェックボックスがオンの場合に限られます。入庫確認では、輸入ライセンス消費 (tcgtc1520m100) セッションで消費ラインが生成されます。制限数量が適用される場合、入庫済数量が品目の棚卸単位で指定されます。制限価額が適用される場合、入庫金額は、ライセンス通貨 (内部為替レートによる) に換算され、消費として保存されます。この価額は、税金、輸入仕入原価または追加原価を除外した金額です。

支払不要の購買オーダーラインの場合、商業価格 (価格ゼロ) を使用する必要があります。納入ラインの価格もしくは割引または両方が変更された場合、これに対応する修正金額はライセンス消費の一部として表示されません。

また、入庫とリンクする販売返品オーダーラインについて出荷が確認された場合、関連輸入ライセンスの消費数量/価額からこの数量または価額を差し引く必要はありません。

輸入ライセンス消費は、グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [ログ履歴] チェックボックスがオンの場合にのみ、履歴セッションでアーカイブされます。

輸入コンプライアンスライセンスの削除

コンプライアンスライセンスは、[伝票のコンプライアンスチェック結果の削除] オプションを使用して削除できます。

注意

伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションで [ライセンス ID] が指定されている場合、ライセンスは削除できません。

ライセンスが削除され、有効期限が現在の日付よりも後の場合、「ライセンス ID xyz はまだ失効していません。継続しますか?」というメッセージが表示されます。

輸入コンプライアンスライセンス履歴の削除:

ライセンス履歴は、輸入ライセンス履歴の削除 (tcgtc0270m100) セッションを使用して削除できます。データは、[ライセンス ID] の [選択範囲] に基づいて削除できます。[設定] グループボッ

クスの [日付] フィールドを使用して、[日付] フィールドに指定された日付までのデータを削除することもできます。この日付以前の取引日を持つライセンス履歴が削除されます。

